

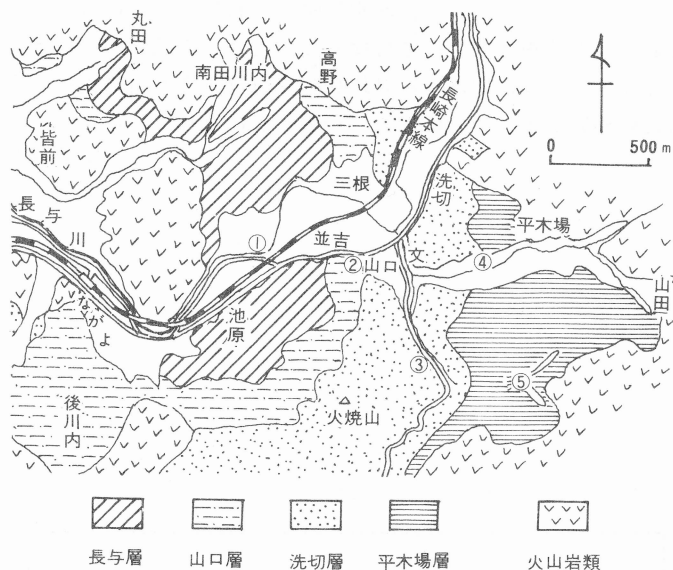
12. 長与の第三紀層層序

地 域	国鉄長与駅—池原—洗切—平木場
交 通	長崎本線長与駅，長崎バス 本河内行長与下車
地形図	長崎東北部（1／25,000）

長与町南部の長与川が西に流れる付近一帯の丘陵地は，諫早炭田を構成する第三系の分布地域の一部をなしている。とりわけ長与では，矢上層群とそれ以上の地層が認められる。また産出する貝化石の構成が，唐津炭田の杵島層に含まれる有田化石帯のものに一致する上，平古場層の骨石の存在は，杵島層の上位にくる佐里砂岩層との対比を可能にしている。長与第三系の層序を一通り知るには，池原より東に歩き，洗切の小学校をすぎて平木場に至るルートが最適である。

池原と松尾の間は，含炭層である長与層の分布する範囲である。しかし，露出が鉄道にそった所はさけて，長与川の鉄橋と道路の橋の間の①の地点の川底に下りて見よう。ここでは中～粗粒砂岩の間にはさまれた，厚さ15～20cmの粗悪炭や炭質けつ岩が見られる。これより北の南田川内と高野の間の道路ぞいに，長与層の炭層が数か所で露出し，かって試掘を行なった旧坑もある。

長与層の上に重なる山口層は，暗灰色泥岩や砂質泥岩よりなる地層で，貝化石を多産する。道路ぞいではよい露出がないため，少し南側の山の中に入るか，または対岸の三根の部落の裏山に行かないと，充分な観察も採集もできない。場所は離れるが，長与駅の真南の山麓や後川内では，暗灰色の泥岩中に多くの貝化石が含まれている。殻が溶けている場合が多いので，採集の時は外型も内型も両方とも持ち帰って特徴を調べる必要がある。



長与の第三紀層の地質図

山口の公民館の裏②に細粒砂岩があらわれるが、これより東に山口層の上位に重なる洗切層が分布する。洗切層は下部は細粒砂岩で、砂質泥岩をはさみ、上部は一般に中粒砂岩であり、数層準に細れき岩をもっている。化石は下部に多く、山口層と類似する種類の貝化石を含んでいる。洗切の小学校より南の谷に入る川平に通ずる道路の崖③では、約80cmの厚さのれき岩があらわれ、この中に二枚貝の厚い殻がまじっている。

小学校より平木場に行く道路上の④地点より西には厚い泥岩層が分布する。本地域の最上部の平木場層である。最下部に骨石とよばれる珪質の凝灰岩が発達するが、この道路より北の谷に入らないと見られない。平木場層には粗粒砂岩やれき岩の薄層をはさむことがあるが、平木場の南の谷中にある大きな堤の中によく露出している(⑤の地点)。また③と⑤の間の平木場層の下部は、火成岩の貫入の

ためホルンフェルス化して、非常に堅い岩石になっている。

なお、地質調査所が三根で行なったボーリング調査によれば、長与層より下位には、切宮層に対比される海緑石様の暗緑色鉱物を含む微細粒砂岩が伏在していることが明らかにされている。

(鎌田泰彦)

地 形 図

地質調査の時には地形図が必要であるが、遠足やピクニックに出かける時も持って行けば便利である。目的地までの距離がわかるし、知らなかった山の名前を知ることできる。また、歩いたルートを書き込んでみるのもよからう。

地形図はこのように使いなれると便利なものであるが、一般にはあまり利用されていない。その理由としては、入手方法がわからないこと、またどんな地域の地形図があるかわからないことであろう。

地形図は国土地理院から発行されている縮尺1/50,000のもの(日本全土がある)と1/25,000のものがある。各市のおもな書店で入手できる。最近では2色・3色刷りの美しい地図が出ていて、見ているだけでも楽しいものである。また比例計算で自分の位置の経度や緯度が求められるので、求めてみるのもおもしろい。